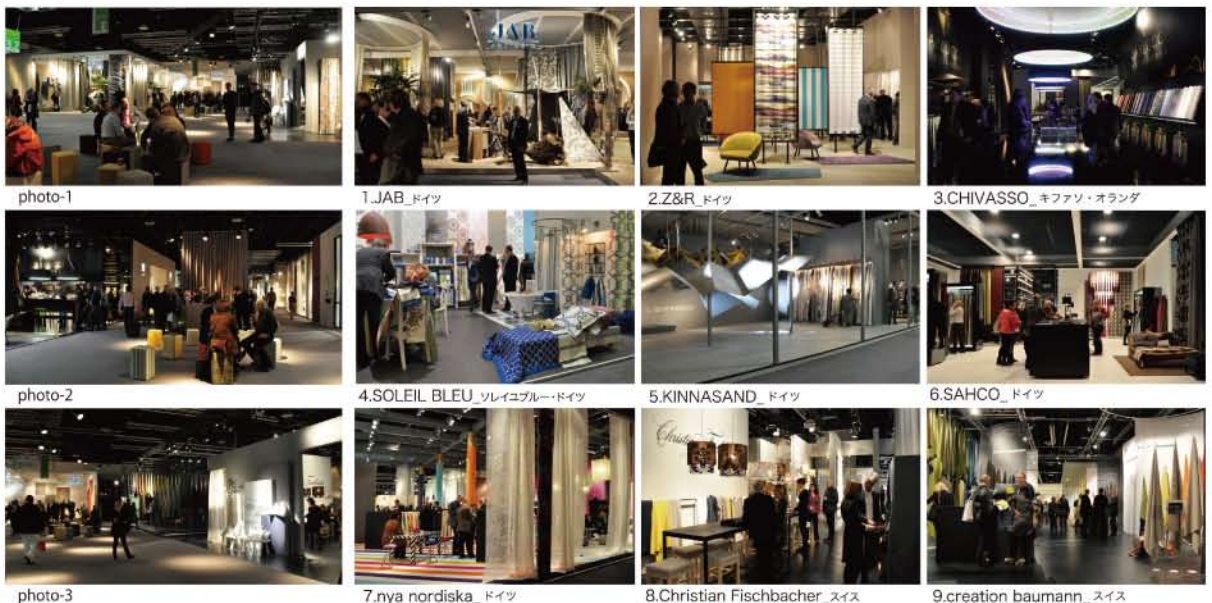


Design	Color	Quality
		
<p>デザインの傾向は、ハンドメイドの伝統とモダンなミックスしたアート感覚デザインの継続。手織りのアート性やハンドメイド感覚をモダンにマシンメイドでプロダクトするのが主流になってきている。デジタルプリント処理されたぼかし花柄やボーダー柄・抽象柄のコレクションを発表する会社が多くなっている。</p>	<p>黒・白・ベージュ・グレーニュートラルカラーがカラーの流れになってきている。スモーキーブルー・ダークブルー・ブルーグレーなどブルー系の色幅が拡大。多色ミックスカラーの拡大。(上質なリッチ感) 大きな流れとして、クラシックパターンにY/ORにピンク系が加わったウォームカラー運動感のあるカラーは継続。</p>	<p>超光沢系を使ったラグの減少。濃密なミックス感やハンドメイド感のあるモダンで上質なラグの継続拡大している。シャギータイプ大柄デザイン+(凹凸感)のあるラグは姿を消す。さりげない高級感、複合するテクニクなどを使った緻密で洗練されたモダンで(クラシックデザインタイプ)ラグが多く見られる。イカット・キリム調デザインの拡大で、ハンドメイドだけでなくマシンメイドにも波及。(エスニックをシンプルに処理したモノが多い。)昨年も取り上げたインクジェットなどのプリント使いの上質なラグが拡大傾向にある。</p>
		
<p>Quality Technique 1. イカット調/手結び 2. ぼかしプリント/カービング 3. ぼかし花柄/インクジェット 4. アニマル調凹凸感/フック 5. ピンテージ調フック 6. 極太ワールヤーンミックス 7. ぼかしボーダープリント 8. 凹凸感/ファブリックワーク 9. アート表現/ウィルトン 10. 平織りミックス</p>		



ドイツ・ケルンメッセ会場にて「ケルン国際家具見本市 2013」は、2013年1月18日～23日の6日間開催された。ファイナルレポートから/出展社数:1,250社 来場者数:142,000人
今回の見本市は、第2回国際キッチン見本市「Living Kitchen」が展開された。さらにテキスタイルエディターゾーンとして、第2回「PURE TEXTILE」を展開。トップエディターが華やかな展示を行い盛り上がりを見せた。2展示は隔年開催となっている。



ケルン国際家具見本市 HALL3-2で開催された **PURE TEXTILE 2013** 出展社数-9社で構成されていた。2011年に始まった展示は、隔年開催のため今回で2回目となる。ブースは中央に休憩スペースをとり、それを囲むように各社がブース展示を行っていた。各社の展示風景を掲載しておりますが、ビジターの数が多くなかなか写真を撮れない状況でしたが、過去開催されていた「ビエンナーレ」を彷彿する熱気を感じました。フォトは番号順に1.JAB・2.Z&R・3.CHIVASSO・4.SOLEIL BLEU・5.KINNASAND・6.SAHCO・7.nya nordiska・8.Christian Fischbacher・9.creation baumann 以上の9社で構成されていた。